



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	21世紀COEプログラムは琉球大学発展の起爆剤
Author(s)	土屋, 誠
Citation	琉球大学21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析 - アジア太平洋域における研究教育拠点形成 - 」最終報告書（平成16年度～平成20年度）：3-3
Issue Date	2009-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/10050
Rights	

21世紀COEプログラムは 琉球大学発展の起爆剤



土屋 誠(拠点リーダー)

「終着駅は始発駅」という言葉は私たちにぴったりである。21世紀COEプログラムが5年間の活動を終えようとしているが、この節目は終着駅ではなく、新たな出発への一里塚ととらえなければならぬ。人材育成プログラムは長期間継続して成果を出す必要があるからである。従ってここで書くのは結びの言葉ではない。

多額の経費を費やした大きなプロジェクトの成果は、目には見えるものと、そうでないものがある。また今後、時間をかけて見えるようになる成果もあるであろう。私たちは国際的に活躍できる若手研究者の育成を目指し、数々の国際的活動に参加してきた。それらの運営に多方面から参加したことも素晴らしい経験であった。独自の活動として毎年実施してきた国際サマープログラムは着実に効果をあげ、外国でも噂されるようになった。参加者は相互に刺激を受け、サマープログラム終了後、複数の参加者が本学の大学院に入学し、勉学に励んでいる。これは大学のプログラムとして今後も継続して開催する。

COEプログラムが開始される以前から、本学では英語による講義をおこなう海洋科学分野の留学生のための特別コース(現在は、留学生の特別配置による亜熱帯海洋科学国際プログラム)が理工学研究科に設置されており、海外から多くの留学生を受け入れてきた。多くの修了生は、帰国後、母国の大学で活発に活動している。これは若手研究者が順調に育成されていることを意味するので、本学には既に国際的な教育拠点の基礎が形成されていると言える。最近、ダブルディグリーあるいはサンドイッチプログラムに関する議論が盛んに行われている。真の意味での

相互交流が実現し、交流が発展することが期待される。

国際的な教育研究拠点とは、本学の大学院で学びたいという希望が諸外国から寄せられ、多くの大学院生が集まり、活発な研究活動が展開される機関を指す。その基礎となるのは私たちの個々の研究教育活動であることは言うまでもない。

活動が活発になる中で、その目標・特徴を常に考えることが肝要である。本学の中期目標には「沖縄の地理的特性をふまえつつ、最先端の特色ある研究を重点的に推進し、熱帯・亜熱帯科学、島嶼・海洋科学で世界をリードする研究拠点の形成を目指す」と述べられている。またアジア太平洋域との関わりが重要であることが随所に示されている。私たちが進めてきたCOEプログラムの内容はまさにこれらの核となるべきもので、琉球大学の特徴ある重要な教育研究分野が発展するための起爆剤である。

「サンゴ礁」あるいは「島嶼」は琉球大学の教育研究のキーワードである。これらのキーワードは本学全体を象徴するものであり、決して特定の分野に限定されるものではない。生物学、熱帯医学、熱帯農学、環境化学、民俗学、地理学、島嶼経済学など多様な分野が統合した研究体制と新しい学際的な学問を構築することが、琉球大学の特徴ある学術研究を発展させ、若手研究者を育成することにつながるに違いない。

本プログラム終了後は大学独自で活動を継続し、さらに進化することが求められている。私たちは本プログラムの成果を将来の琉球大学の将来計画にどのように生かすべきか考える必要がある。まさに私たちは始発駅に立っている。

